



# 進路通信

西濃高等特別支援学校

進路指導部

特別号 NO.2：令和6年4月

～ 就職とその後の支援 ～

## 開校からの西濃高等特別支援学校の進路状況について

本校は開校して6年が経過しました。1期生～4期生までが卒業し、本校が目標としている「社会の中での活躍（企業就労）と自立」に向かって多くの卒業生が社会の中で活躍を見せてくれています。この通信②では、本校卒業生の就職と就職後の支援についてです。

### 障がいのある子供たちの教育と就職、その後の支援について

本校に在籍している生徒の多くは、地域の中学校の特別支援学級からの進学です（特別支援学校中学部、中学校の通常学級からも毎年若干名の入学）。小学校または中学校の時に特別支援学級に在籍し、中学校卒業時に一般高校か本校か地域の特別支援学校で進路を検討しながら、本校を受検した人が多いと感じます。【※近年、高等学校でも通級による指導（特別支援教育）が始まっています】

本校では、企業での実習を3年間で7回以上実施し、「自分の長所の生かし方」「職業適性」「働くことの楽しさや難しさ」等を体験し、希望業種を絞っていき就職へと繋げていくという取組を行っています。その就職に関する結果は先ほどグラフで示した通りです。1期生、2期生の頑張りもあり、本校の生徒は「働ける」という信用を企業の方々からいただけるようになり、声をかけていただける企業さんの数も増え、雇用条件も年々良くなっているところです。

### 障害者雇用実態調査（厚生労働省）との比較

障害者雇用実態調査は5年に1度結果が発表されます。現時点での最新版は平成30年の結果となります。この調査によりますと、知的障がいのある人の正社員率は19.8%、30時間以上40時間以内のフルタイム勤務者の平均給与は13万7千円となっています。最低賃金が毎年上昇しているため、単純に本校の結果とは比較できませんが、障がいのある人の雇用形態が更に改善されていくことが期待されます。

令和4年度に新たな雇用実態調査がされており、この春に最新の結果が発表されます。最低賃金の上昇、同一労働同一賃金、合理的配慮の義務化等の社会の変化によって、様々な数値が改善され、障がいのある人の働く環境が整ってきていることを確認したいです。

### 卒業後の就労支援

本校の生徒は、就職をする時に地域（居住地）の障がい者就業・生活支援センター（支援センター）に登録します。そして、入社後に支援センターの担当者の方から様々な支援を受けることができます。例えば、定期的な面談、職場内での困りごとの相談、具体的な配慮の提案や相談、それらを会社側と調整すること等です。このような支援があり、本校の生徒は一般高校生に比べ、離職率が低く保たれているという現状です。仕事を理解することに少し時間がかかる生徒もいますし、環境の変化や仕事内容の変化が苦手な生徒もいます。安心でき、自分の能力を最大限に発揮できる環境を整えてもらえることで、継続した働きができ、本人にも企業側にも大きなメリットがあります。また、状況に応じて、生活面の支援を受けることもできます。

(NO.3へ)